



**AKARENGA
DIPLOMA
COLLECTION
2025**

Make Progress

Schedule

3/27(木) 公開審査会

10:45~13:00 二次審査 (非公開)

13:30~14:00 企業ピッチ 横浜赤レンガ倉庫 1号館 3階ホール

14:00~18:00 公開審査会

一般公開 横浜赤レンガ倉庫 1号館 2階

3/28(金) ~ 3/30(日) 一般展示

10:30~18:30 一般公開 横浜赤レンガ倉庫 1号館 2階

実行委員長挨拶

「赤れんが卒業設計展」は今年で22回目の開催となります。

様々なご支援を賜りまして、関東10大学による「10展」として始まり、
コロナ禍を乗り越え、現在では日本最大規模の卒業設計展に成長してまいりました。

会期中は数多くの作品から厳選された100作品が展示されます。

様々な視点やストーリーを持った卒業生たちの集大成であり、
これからの時代に繋がる情熱そのものです。

是非赤レンガ倉庫までお越しください。実行委員一同お待ちしております。

今年も赤れんが卒業設計展をどうぞよろしく願いいたします。

赤れんが卒業設計展代表 2025 代表
東京都市大学建築学科2年 高橋 大起

Make Progress

20年という節目を経て次の10年へと進み始めた「赤れんが卒業設計展」。

これまで本設計展に携わってきた人々の「建築への愛」という
小さくも尊い1つ1つの“れんが”が幾度とない成長を促してきた。

その意思を今年も引き継ぎ、組織としての成長は勿論のこと、
その成長を通してこの卒業設計展に携わってくださった、
共に建築を志す人たちの新たな繋がりを作り、
育む場としての卒業設計展を目指す。

審査員紹介

ないとう ひろし
内藤 廣



審査委員長

内藤廣建築設計事務所、東京大学名誉教授

1950年神奈川県生まれ。

1976年早稲田大学大学院修了後、フェルナンド・イゲラス建築設計事務所（スペイン・マドリッド）、菊竹清訓建築設計事務所を経て、1981年に内藤廣建築設計事務所を設立。

2001-11年東京大学大学院教授、同大学にて副学長を歴任。2011年から同大学名誉教授。2023年4月から多摩美術大学学長。

主な作品に、海の博物館、牧野富太郎記念館、倫理研究所富士高原研修所、島根県芸術文化センター、静岡県草薙総合運動場体育館、富山県美術館、とらや赤坂店、高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設、東京メトロ銀座線渋谷駅、京都鳩居堂、紀尾井清堂など。

たかの ようへい
高野 洋平



MARU。architecture、高知工科大学特任教授

1979年愛知県生まれ。

2003年千葉大学大学院修了。

2003-2013年佐藤総合計画。

2013年からMARU。architecture共同主宰。2014年から伊東建築塾（伊東豊雄の私塾講師・プロジェクトリーダー）

2013-2016年千葉大学大学院博士後期課程 博士（工学）。

現在、高知工科大学特任教授、法政大学・京都大学非常勤講師。

主な作品に、花重リノベーション、笹島高架下オフィス、生態系と共に生きる家、松原市民松原図書館、土佐市複合文化施設など。

なかむら ひろし
中村 拓志



NAP 建築設計事務所、明治大学特別招聘教授

1974年東京都生まれ。鎌倉と金沢で少年時代を過ごす。

1999年明治大学大学院博士前期課程修了。同年、隈研吾建築都市設計事務所入所。

2002年NAP建築設計事務所を設立。

現在、明治大学特別招聘教授、NAP建築コンサルティング、NAP International、NAPデザインワークスの代表も務め、街づくりから家具まで、扱う領域は幅広い。自然現象や人々のふるまい、心の動きに寄りそう「微視的設計」による、「建築・自然・身体」の有機的関係の構築を信条としている。そしてそれらが地域の歴史や文化、産業、素材等に基づいた「そこにしかない建築」と協奏することを目指している。近年はそのエッセンスを日本の伝統的な建築や庭園文化の中に発見し、それらの再構築にも取り組んでいる。

主な作品に、上勝ゼロ・ウェイトセンター、Ribbon Chapel、東急プラザ表参道原宿など。

はらだ まさひろ
原田 真宏



MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO、芝浦工業大学准教授

1973年静岡県生まれ。

1997年芝浦工業大学大学院修了。1997-2000年隈研吾建築都市設計事務所。

2001-2002年文化庁芸術家海外派遣研修員制度（J.A.M.LAPENA & ELIAS TORRES Architects）。2003年磯崎新アトリエ。

2004年原田麻魚と共にMOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO設立。2008年芝浦工業大学准教授。2016年 - 芝浦工業大学 教授。

建築デザインを中心としながら、東北震災の復興都市計画や、伝統技術を生かしたプロダクトデザインまでスケール横断的なデザイン活動を繰り返している。その豊かなビジョンと共に建築的「質」の高さに定評があり、ほぼ全ての作品が国内外の賞を受賞するなど、世界的な高い評価を受けている。

主な作品に、XXXX、m3/Kg、Tree house、海辺の家、Seto、知立アフタースクール、道の駅ましこ、Entò、STROOG 社屋など。

やまざき けんたろう
山崎 健太郎



山崎健太郎デザインワークショップ、工学院大学教授

1976年千葉県生まれ。

2002年工学院大学大学院修了。入江三宅設計事務所を経て、2008年山崎健太郎デザインワークショップ設立。

2024年工学院大学教授。

主な作品に、糸満漁民食堂、はくすい保育園、新富士のホスピス、52間の縁側など。



0015 建築的可能世界

神戸大学
山崎 稜太

「ある日家に帰ると、そこには私の知らない家があった。」
建築と人の時間軸の相違について問う。多様化する人に対し建築の二面性を再解釈し、それらが人の変化に対応して切り替わることを機能的シフトと定義し、建築と人の共存を目指す。そのための一つの試行として、本提案では他者性の変化に基づく住宅の設えの変化について考える。最も人と密接な建築である住宅を扱うことで、今後全ての“建築として”の提案へと発展させる。



0024 ドンツキの再編が宿す風景

大阪工業大学
朽木 まどか

城郭や堀が埋め立てられ、暗渠化したことで生まれたドンツキは、都市の中で消えゆくものとなった。ドンツキで見られるふるまいを建築という具体的な形で可視化し、ドンツキのもつ潜在的な価値を空間として感じられる場を創出する。この設計を通じて、ドンツキの魅力を再発見し、ドンツキを消えゆくものから都市に継承されるべき風景へと昇華させることを目指す。また、ドンツキを用いた新たな建築様式を提案する。



0028 ヒトの在りか

- 街へとつながるヒトの暮らし -
東京都市大学
四辻 響太

街を知らない新規住民と孤立しているドヤ住人を繋ぐ、孤立社会における住宅と街の間となる街宿の提案。ドヤ街の影は薄まり、住戸開発によって姿を変え始めた台東区旧山谷地区。住民の二極化が進み、街の更新方法が問われている。多様で複雑な過去を持つ人が多い街だからこそ、建築に対するスケール感と利用への抵抗の差が大きく表出する。それらを境界の操作により受容しながら独りの住民をつなげ、街を内側から治療・更新する。



0039

虚と実

- 切開と縫合による漁村再編 -
大阪公立大学
大野 岳

漁業という生業を地域に還元するため、生産されてから消費までの一連の流れを建築化する。手法として空き家の切開と縫合を用いる。切開された空き家は地域性を反映し、町に系を開くようにデザインされ、それが面的に波及する。縫合される漁業の一連の流れを担う公共建築は住人の既視感、慣れた親しんだスケール、ファサード、マテリアルのリミックスによる新たな公共性を含む建築となる。



0056

2979.6956...

- 地球の危機に備えたアーカイブの提案 -
大阪工業大学
平井 悠策

いつ何が起るか分からない今の時代、未来へ繋ぐアーカイブの意義が問われている。もし、はるか遠い未来に巨大隕石が地球に衝突し、私たちの知る世界が無くなるとしたら、今のアーカイブに意味はあるのだろうか。私は人類の知の遺産を後世に託すため、地下2979.6956... mに空間を構想した。編纂された現在および未来の知見を保存し、文明のエッセンスが地下の空間へと転送される。データは永久的に保存され、遠い未来のための眠りにつく。

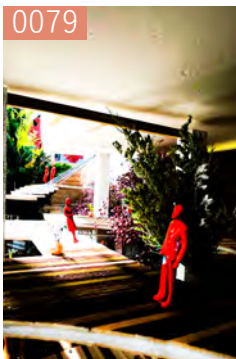


0064

キラキラな世界

- Tiffanyの宝石に宿る魅力 -
東京都市大学
小林 萌々花

銀座ティファニーの新しい提案は「宝石のクラフトを体感する場所」である。宝石の輝きや技術を内包した建築で、自然界の幾何学を取り入れファサードは原石を表現している。また、空間内にはランダムに配置された平らな床と斜めの床が組み合わせられ、異なる体験を提供する。ティファニーはただの商業空間ではなく、職人たちが生み出す美と精緻さを訪れる人々に芸術的体験として提供し、銀座の街で新たな感動を生み出すことを目指す。



0079

場の響奏

- 音楽と環境の時間軸を超え、建築は共鳴する幻奏となり得るのか -
法政大学
清水 大暉

軽やかな音楽のように、建築は流転する環境を取り込み、時間軸を内包する。光や風、音、人々の動きといった環境要素が空間に抑揚を与え、刻々と変化する体験を生み出す。人々はその空間で多様な感情を紡ぎ、自らの選択により音を奏でていく。足音が響く床や差し込む光、風の揺らぎが、空間全体にリズムやテンポをもたらし、心に響く体験を創出する。固定化されつつある都市に、価値観や感情を包み込む新たな居場所を提案する。



0086

シオの追憶

- 広島県竹原市の、記憶を運ぶソルトシップ -
立命館大学
河内 遼

現代社会で「食」は、私たちの生命を支える根幹であるにもかかわらず、単なる消費の道具として扱われ、その本来の価値が失われつつある。そこで本計画では、食文化の基盤である「塩」に注目し、塩作りで栄えた港町を舞台に、建築を通じて、食と自然の本来の価値の再考を促す空間形成を目指す。この取り組みは、塩の歴史を受け継ぎつつ、未来に向けた持続可能な「食と自然の新しい風景」を再生する試みである。



0087

永劫の黙示録

日本大学
三浦 哲平

描いていく中で建設根拠というのを非常に悩んだ。一つ例を挙げると宗教的背景から生まれたバベルの塔は、宗教的根拠があり要請を受けて描くことは可能だった。しかしこのドローイングを描く上でそういった建設根拠というのがない。そこで逆説的に建設根拠を描き続けていく中で模索した。するとドローイングに導かれるように建設根拠も生まれた。このドローイングを見る鑑賞者が第一発見者のような追体験をしてもらいたい。



0092

拝啓、海へ

東京理科大学
柳生 水樹

海はどこまでも広く、私の全てを許してくれる。忙しなく生きる現代人には海という癒しの空間が必要である。気候が穏やかなことから保養地として知られる神奈川県茅ヶ崎市は、砂浜の侵食や漁業の衰退など問題がある。砂浜侵食の原因となっている防波堤を自然環境の改善を促す装置として再構成する。また、漁港や展望デッキ、そこに向かうまでのシークエンスにより海との関りを感じ、人の癒しとなる空間を設計する。

0095



農村の近代化により民家から外部化されたB面建築によって神輿蔵を拡張する。

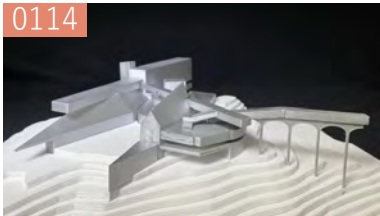
機能別に外部化され、失われていた多様な生活の豊さが祭祀を軸に再配置され、新たな生活の重心を確保する。

ご先祖さまはお茶碗の前に

- 農村の近代化によって民家から外部化されたB面建築による神輿蔵の拡張 -

東京都市大学
深澤 一弘

0114



卒業制作で故郷を題材にした物語を作りたいと思った。

物語の舞台となる建築をデザインする際、物語の制作過程を建築に反映させることを試みた。

物語と舞台の制作を往來しながら、漫画と建築、2つの作品が完成した。

Here

- 物語と設計の往來を記録する -

日本大学
金澤 恒明

0126



高齢化の進行に伴い、認知症患者の数も年々増加している。

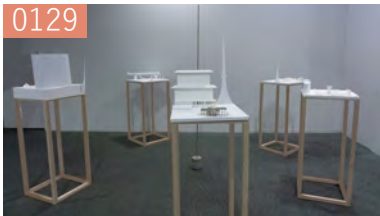
従来の認知症施設は、介護者が管理しやすいように画一的で鍵のかけられた閉鎖的な空間が多い。

このような空間は脳への刺激を減らし、症状の進行を促す要因ともなり得るため、認知症患者に適さない。そこで、刻々と変化する記憶や症状に合わせて段階的に住み替えができる認知症施設を提案する。

つむぐ記憶、ほどく日常

大阪工業大学
光野 綾華

0129



わたしが空を見上げるとき、頭上を太陽が回る。

東京のシンボルであるその鉄塔は、年間を通し様々な場所に影を落とす。それは塔と太陽の関係であり、わたしたちとは無関係に今日も動き続ける。影の下にわたしが入り込むとき、その関係を「日食」として目撃する。それは遠く離れた複数の時間の重なり合いの瞬間である。建築は、ただそこにある状況を浮かび上がらせる。わたしが空を見上げるとき、私たちは太陽の周りを回る。

宇宙 トウキョウ わたし

明治大学
佐藤 萌

0171

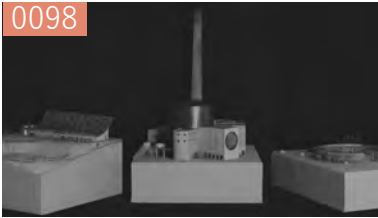


農城

早稲田大学
北澤 宏太郎

丸の内に農業と畜産の紹介拠点を計画。地名の由来である江戸城をモチーフに、動物との触れ合いの場や、農場・畜産の最新の姿をビジネス街に発信する。垂直農場棟、ワイヤーとローラー支点をを用いて階高が上昇する。

0098



神奈川県鎌倉市は2024年3月を以て市内でのゴミ焼却処理を終了した。

建築的擬態による廃棄の共存、そして共存による逆説的な人々の意識へのアプローチを想像する。

廃棄のミメシス

- 擬態的境界による再編集世界の想像 -

東京都市大学
庄司 唯人

0120



昨今の現代社会において、建築物からはみ出た生活雑多なモノにより、空間が共有されている街区を私たちはよく目にする。

私の生まれ育った兵庫県姫路市本町を対象として、その地の気候風土により形成された建築要素と変遷を考える。姫路本町の更新記録をリサーチし、リサーチから修繕を必要とする敷地、特異的な立地の敷地を選定し、プリコラーージュの手法を用いて本町を更新する建築群としてsiteA~siteFに提案する。

本町アーカイヴ

プリコラーージュの手法を用いた建築群の再編

大阪産業大学
武木田 壮亮

0127



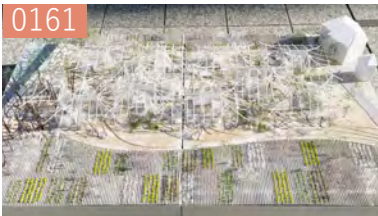
空間はわたしの外側を、
食事はわたしの内側をめぐる。

大阪公立大学
鄭 佳恵

大地がそのまま浮かび上がり、巨大なテーブルとなったような食事のための建築をつくる。

ここで、わたしたちは食事をする。食事とは、唯一本能に直結した自己を顧みる時間である。空間はわたしの外側を、食事はわたしの内側をめぐる、自己へのまなざしが育ってゆく。

0161



住人の痕跡が建築の枠組みを形成していく「街図」をつくる住宅街の提案。

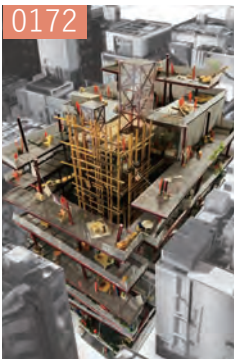
ティムインゴルドが提唱する線の概念によって住宅境界を考えると、住宅の領域はもっと柔軟に変化させることができるのではないだろうか。小平における街図は、エンクロージャーがもった魅力である環境の境界要素に代替されていくことで、季節や天気など多様な周期によって領域が変化する生活が描かれていく。

軌跡と街図

- ふるまいに伴う住宅境界のあり方 -

法政大学
柏木 宏太

0172



歌舞伎町コンプレックス

- 旗竿地の雑居ビル建て替えによるネオホームレスのための児童相談所 -

早稲田大学
小泉 満里奈

歌舞伎町の旗竿地を活用し、雑居ビルの建て替えを通じてネオホームレスのための開かれた児童相談所を計画した。建築と土木の更新速度が人の変化に追いつかず、居場所のない者が生まれている現状に対し、木造と足場により人や都市の変化に柔軟に適應できる建築を実現した。こうして、居場所のないネオホームレスを受け止め、欠けていたホームでの経験を補う。歌舞伎町は彼らの故郷となり、誰もが居場所を持つ街へ更新される。

0211



鎮守の堤

～信仰と防災を繋ぐ、埋立地の新たなランドスケープ～

芝浦工業大学
西村 隆司

本提案は、千葉市の埋立地において、信仰と防災を結び付けた新たな防災の形を提案する。

高潮による浸水リスクが高い埋立地において、神社を避難先とし、埋立地によって途切れた参道の延長上に鎮守の森を拡張し、避難経路とする。祭りの道と避難経路を重ねることで、日常と非常が分断された現代において、非日常がそれらをつなぐ。人々は無意識のうちにかつての信仰をなぞり、非常時の道を歩むことで、都市に全体性を生み出す。

0213



変容の萌芽

～プロセス・プランニング論の更新からみるアートプラザの改修計画～

日本大学
大塚 峻斗

プロセス・プランニング論は、現在と未来を同時にとらえるための方法論で建物が実際に変容していく計画ではなかった。この方法論を手掛かりに建物が実際に変容していく計画をすることで、都市に適応する建築を創出していく。

誰もが無意識のうちに関わり、生成と消滅をおこなわれる建物は、ひとりの建築家を超越し、世代によって建築家が交代することで、プロセス・プランニング論は達成され、ある種の不滅性を獲得するだろう。

0231



他者性を纏う

～都市における開かれた暮らしの提案～

東京理科大学
寺林 蒼月

東京都台東区に単身者のための4戸の集合住宅を設計した。現在、都市にはコンパクトかつ効率的な暮らしを求めた住宅が多くある。それらの住宅では都市から独立した暮らしが営まれている。本設計では、住人の暮らしを想像し、それらの生活動線に他者性のある空間を差し込むことで都市における開かれた暮らしを提案する。自身で完結する、予測可能な暮らしの中に偶然を差し込むことが人の暮らしを豊かにすると考える。

0249



階段教室

「シャッター通り商店街＝小学校としての再生

崇城大学
後藤 大空

衰退している商店街のなかに小学校を融合することで商店街の新たな再生の形を提案する。少子化が進むなかで、地方が過疎化していくことを防ぐためにも地元へ愛着を持つ子ども達の存在は重要になってくるだろう。小学生の6年間を地域の歴史が詰まった場所で、地域の人々と日常の関わりあいのなかで成長することで地元への愛着が生まれるのではないだろうか。地域の人々みんなで子どもの成長を見守られるような小学校を設計した。

0257



連関する島の生業

大阪工業大学
向出 祥馬

離島の魅力ある資源を最大限に活用し、島全体で価値を生み出す仕組みや暮らしを支える枠組みを提案。愛媛県・中島に、よそ者の受け入れを起爆剤として、島の暮らしと島産業を新たに変換する。決して途絶えることのない「生業」を介したコミュニティを鍵に、島の再発見を通して、既存の地域資源との連関を深め、この島ならではの独自性を持つ全体性を構築する。

0259



空地から種地へ

～池袋本町都市計画道路における未来の交配実験～

工学院大学
渡辺 椎菜

私の地元、池袋本町は都市計画道路によってできた不毛な「空地」が広がっている。この「空地」にまちの独自の文化的生態系や記憶から集めた「記憶の種」を蒔くことで、種が交配しながら空地を育て、不毛な「空地」から未来へ繋ぐ居場所を育む「種地」へと変えていく。そして空地で育った種たちは、計画道路完成後もまちに記憶を伴う「新たな種」として残っていく。

0269



変化する文化塔

～消えゆく祭礼の蓄積装置～

日本大学
園田 悠太

日本の祭礼文化は市町村合併や高齢化、後継者不足により継承が困難になっている。そこで祭礼文化を建築化し、空間として保存することで後世に伝える装置としての建築の在り方を提案する。また町でできた新たな文化が塔に付着され続け文化塔は未完の建築として成長し続ける。町の神を引き寄せた文化塔は街に絶大なインパクトと活気を与え、この先の町の発展に寄与する。

0272

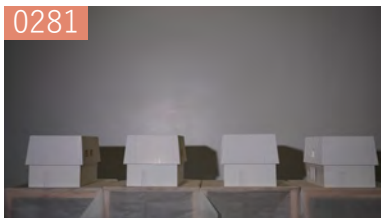


生きつづける物語

法政大学
白崎 暉

私は建築を愛する人類学者である。私にとって建築とは固定的な意味を持つ完成形ではなく、人々の営みや記憶を紐解き、その価値を次の世代へと伝える、生きつづける物語であると捉えている。私はある地域のリサーチを続けてきた。ある場所で約400年前の基礎の跡に付随して、建築家が語り始めたことされる民話が残されていた。私はこれらを手がかりに、かつてあった建築の全体像と具体的な空間を風土と環境から想像することを試みた。

0281



私は、

明治大学
大田 祥悟

ひとつの住宅としての作品と同時に、客観的には不可視の領域にある「コンセプト」に基づいた4つの異なる説明がその住宅に対して与えられている状況も作品として提示する。現前される物的作品と現前されない形而上の作品の切断された関係性を、建物と建築家の間にも確認することで、現代におけるそれら双方のあり方を問う。

0298



千本松原と対話する小屋

大同大学
鎌田 蓮人

この小屋を通し、千本松原を訪れる人々が、一瞬でもこの場所の歴史や価値について考え、既存の価値観を揺さぶり、新たな視点から、自分なりの解釈を生み出すきっかけを作る。最終的には千本松原の美しさを深めることにつながり、関心を深めるための出発点として捉え、異種性を放つこの小屋で「何か」を考えてもらうことで、過去の千本松原が承継されていくことを望む作品である。

0302



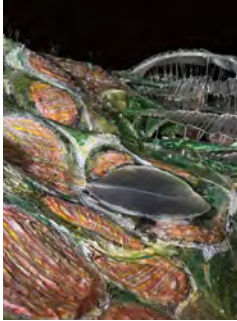
RhinoGit は、プログラミングのバージョン管理を建築設計に応用し、試行錯誤の履歴を共有・相互参照可能とした Rhinoceros 拡張システムである。設計変更前後の差分をノード化して検討過程を可視化し、部分的参照を可能にした。約 40 名が参加したワークショップでは各参加者のノード化された履歴グラフを統合して最終案を生成し、採用・不採用を問わず全検討過程が記録された。

RhinoGit

～履歴と署名の集合知～

慶應義塾大学
水野 祐紀

0320



蝦夷のまほら

～ハスカップワイナリーが誘導する産業転換、「環むろらん」を描く～

長岡造形大学
長田 津都未

北海道室蘭市。鉄の街と呼ばれ、多くの工場が室蘭港の周りにあるが、産業転換によって長期的に衰退してしまう。そこで、工場の産業遺跡としての保存を進める。同時に、北海道の特産果実を扱うハスカップワイナリーを設計。そして、それらは「環むろらん」に繋がる。絶壁の上のハスカップワイナリー、工場の産業遺跡としての保存が、室蘭港の周りにある多くの資源とも繋がりが、室蘭の再生を促す「環むろらん」が形成されていく。

0331

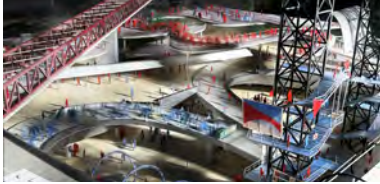


平生のすみか

慶應義塾大学
遠藤 さくら

路地の街・月島。現在に至るまで築かれてきた「路地コミュニティ」は、強固であるものの閉鎖的である。その原因は、従来の直線的な路地の空間特性であると仮定した。そこで本建築では、高層化した建築の中で、路地を拡幅、雁行、垂直化させ、3次元的な「路空地」を創出する。それらは住民達の多様な営みがあふれ出し、開放的な新しい路地空間を形成する。再開発が進む今、時代に即した路地の在り方を提案する。

0336



やわらかい革命

～デモとマスの力を自覚する都市装置～

芝浦工業大学
栗林 亜佐子

かつて広場が失われ現在開発が進められている新宿駅西口を敷地とし、デモが受け入れられる土壌としての広場を設計する。膨大な人や情報、ものが集まる新宿という都市の日常風景のなかのマスデモに見立てて普段「地」となっている通行人を「図」とすること、自らが参加したデモの空間的展開の仕方と分析を手法として、デモ参加者と通行人の間にある分断を緩衝し、本来の為政者と市民という境界線に書き換える。

0361



3次元トランジット計画

東京電機大学
与儀 大輔

現在進行形でコンパクトシティ化が進む宇都宮市では、5年後にLRTの西側延伸が決定し、町全体がつながろうとしている。私はこの5年後の宇都宮西側地域を設計舞台とし、新たに計画されているトランジットセンターの新しいあり方を提案する。様々なスケールのモビリティが入るこの100mの敷地に、3次元化したロータリーを挿入し乗り換えが豊かになる空間をつくり、ここがモビリティ、まちのハブとして機能し未来の宇都宮を彩っていく。

0310



風景に住まう

～棚田に没入する暮らし～

京都美術工芸大学
小森 魁

現代に生きる人間の多くはインフラが当たり前に通っている都市部で快適な生活を送っている。そのような暮らしは一見豊かなように思えるが、人間の生活する空間と外部環境が切り離されてしまっている。嫌なものは外側に排除する生活ではなく外部環境も生活の一部として取り込み風景と一体となる生活を送ることが現代において必要であると考え。本計画は棚田集落で棚田に没入し一体となることで風景を継承していく提案である。

0328



水へのもたれかた

明治大学
後藤 雄大

建築と切っては離せないことの一つに人の運動がある。配水池と海面が示す、僕らの暮らしの物理的限度に、触れる運動とそのための引力を設計した。有限な暮らしの運動と、無限な水の運動が反響した時に何が見えるのかに興味がある。

0334



駒沢回想録 2064

～二つの東京五輪 / ノスタルジアによる甘美なオルタナティブ・パストの啓示～

芝浦工業大学
鈴木 創

ノスタルジアという「記憶の編集機構」に焦点を当て、オリンピックなど国家プロジェクトが「不都合な記憶」へと塗り替えてきたかを明らかにし、二つの東京五輪とそれ以前の場所のリサーチから見出された「オルタナティブ・パスト」を断片的で不完全な形で挿入することで、イメージの補完機能を発現させ、駒沢公園を複数の記憶が同時存在するイメージ的な環境へと転換することを意図する。

0342



国際団地

～移民と日本人の共生のモデルケース～

日本大学
勝野 琉生

日本は移民受け入れ国第四位だが移民に対する人々のイメージは悪く、ともに暮らす国民として捉えられていない。現在移民と日本人の居住者数の割合が半分である芝園団地においても両者間に静かな壁があり、中間領域も外国語が飛び交い、飲食店も外国人向けへと変化。そんな移民に浸食されるイメージを与えてしまう中間領域に両者の居場所となり、異文化を日常的にみる空間を置くことで共生のモデルケースを提案する。

0362



3つの収束原理

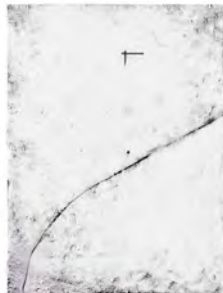
/ 3 standard convergences

日本大学
大塚 達哉

人間の目はスケールの違いによって物事を切り離して見がちだ。しかし、ミクロとマクロは一つの世界の異なる顔であり、深くつながっている。100平方メートルは建築としての最小単位、1万平方メートルは制御の限界の広がりであり、それを超えると都市の一部となる。この制作は、建築が都市へと移り変わる瞬間を探り、スケールの変化が空間や関係性に与える影響を明らかにする試みである。

0367

私のアトリエ

北海道科学大学
田村 さやか

幼い頃から絵を描くことが好きだった。絵を描く私の日常を設計する。敷地は北海道石狩市にある広大な海を眺望できる小高い丘である。この丘に1.「大地に捧げる建築」2.「海に捧げる建築」3.「空に捧げる建築」という3つの建築を点在させる。

これらの建築があることでこの敷地全体が私の領域であり、私のアトリエであるかのように、関係性の風景の中で私の日常が描かれるだろう。

0376

野生へのまなざし

東京理科大学
高橋 照

都市はすでに「野生」である。

しかし、ただスラブが積層された都市空間において、それは知覚されず、人々の自然に対する意識低下や都市生態系を排除した表面的緑化が問題視される。

都市の野生に目を向け、「野生」を知覚することで、人間と人間以外の関係を等しく捉え直し、これからの自然との共生の在り方を見つめ直す建築を提案する。

0388



現代社会で様々なことに揉まれて、生きにくさを感じる人にとって「生きやすさ」とは何かを考えた。社会的に孤立している人々が環境改善という一つの自然活動を通して生きにくさから開放していく居場所を児島湖の水景のもと、主に植生を設計対象に計画する。

湖に人を纏う

一児島湖の水質改善と社会的孤立のよりどころ

高知工科大学
荒井 琳

0395



平成新山のふもとで生き続ける島原へ
～溶岩ドーム崩壊という自然現象と共存する今後の安中地区の在り方～

奈良女子大学
中村 紗也佳

長崎県島原市は、雲仙普賢岳の噴火により甚大な被害を受け、溶岩ドーム「平成新山」は今も不安定な状態で残る。崩壊に備え建設された「水無川導流堤」が地区を分断する中、堤防の高上げという手法ではなく、地域全体で土砂を受け止める土地の在り方はないだろうか。現存する田畑に対し【切り土】【盛り土】という手法を用い、災害と向き合う未来の安中地区を描く。平成新山の崩壊を災害とらめしない、そんな風景の在り方を説く。

0411



Mt.Habitat

～都市に建つ山～

東京理科大学
金森 沙良

大規模開発で発生する建設残土の山をスラブで覆いながら積み重ね、多様な生物の生息空間を生み出す。やがてそれらは積層し、一つの山となる。千葉県幕張の埋立地を敷地に山としての建築を計画する。

0369



眠る家

～感覚の記憶を記録する～

東京都市大学
宮地 愛美

毎日をトキメクために、形に残らない記憶を記録するために、すでに存在しないかつて暮らしていた家で日常の中のトキメキについて考える。毎日の小さなトキメキを日々の中で、かつてのスケール感覚やイメージから記憶を空間にし、建築という形で記録する。

0386

伽藍堂
がらんどろ東京藝術大学
永島 七海

よく知っているはずなのに、放課後の教室はいつもと違って見える。「複数人が共に過ごす場」という機能から解放されることで、普段気にも留めなかった天井の凹凸や遠くの音に気がついたりする。街中にある何の変哲もない建物にも同じことが言えよう。

純粋なかたちをみつめ直したとき、そこにはもともとの機能とは別の物語が起こりうるのではないか。建築をただの箱として再評価する、この箱を“がらんどろ”と名づけよう。

0390



風景をわたしのものにする

一手の先のエノコログサから夕焼け空まで

日本女子大学
武田 恵実

小学校の帰り道、エノコログサを触りながら帰った。手の先のエノコログサから遠くに広がる夕焼け空まで、その全てを自分のものだと感じていた。大人の帰り道こそ、経験が更新・蓄積され、他者の振る舞いや街の営みまでも自分の延長に感じる私的風景化の場所となるべきだ。設計した駅前広場は構造が出来事の次元に吸収され経験は内から外へ拡張される。足元の小さな世界と大いなるもの内にある自らを交互に知覚し、今その瞬間を生きる建築。

0407



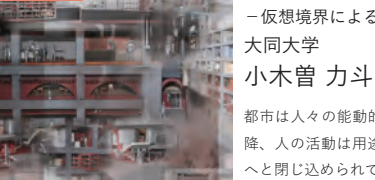
来歴認承増殖都市

～歴史が育んだ“国々しさ”が成長させる三河島建築～

実践女子大学
福田 文絵

一つひとつの街には歴史がある。歴史が人々の性格を生み出し、その一人ひとりの空間の使い方が集積して街は成長していく。現代の再開発事業において超高層建築を建てる際、その土地の過去を拭き去り、そして巨大な箱を作ってしまう。そのアンチテーゼとして今まで積み重なった歴史を継承し、そこから生まれる人々の空間に対する愛着や占有する気持ちを礎にして、増殖する都市の構成法を提案する。

0431



都市の劇場

～仮想境界による狭間の改修～

大同大学
小木曾 力斗

都市は人々の能動的な活動で満ちている。一方で近代以降、人の活動は用途や機能によって分類され、建築の内へと閉じ込められてきた。本提案では、都市に息づく人々の活動を抽出・分析し、そこに見られる空間的特徴である「狭間」に着目した。何かと何かのあいだには、人々の能動的な活動を誘発するきっかけが存在する。「狭間の理論」を用いて、人々の活動を連鎖させることで「都市のような建築」を計画する。

0444



ウグワンコトバ

- 祈りの言葉から考える建築の再解釈 -

琉球大学
宮城 英通

言語は、単なるコミュニケーションの手段ではなく、その社会や文化の価値観を反映する体系であり、社会や文化の違いは、空間の認識の仕方を変えることである。

沖縄には、御願言葉のような沖縄独自の言語体系が存在している。それは、その地に住み、その地の言語を話す人だけが内的に体験できる空間があるということである。そこで、沖縄の言葉が持つ意味や役割を建築的に可視化し、建築空間を形成する新たな建築手法を提案する。

0477



アボリジニの家

日本大学
細野 開友

1788年イギリスがオーストラリアへ入植したことがきっかけにオーストラリアの先住民であるアボリジニの人々が大量虐殺された。私たちは「異なる存在」とともに生きることの、そのままの価値を、素朴に肯定することを感受できているだろうか。自分とはおよそ関わりないと思える遠方の地や過去の出来事や人々すら建築という事象は重なりを持つ。

0496



資源連動建築論

- ガソリンスタンド跡地を活用した木材の流通拠点の設置と木材活用の波及 -

工学院大学
三上 翔三

資源があり建築が生まれる。ガソリンスタンド跡地を増改築した製材所・木材流通拠点の提案は、都心部での木材供給の場として機能し、まちに開くことで資源が原料、材料、建築へとつながっていく様子を身近なものとする。木材を活用・貯木した規模別の6つの提案は、製材所を介して部材をスケールダウンしていくことで、木材の解体や交換と共に連動し新たな建築が生み出されていく。

0510



知能の拡張

生成AIによってアンビルトを再構築する設計プロセスの提案

京都工芸繊維大学
上村 和輝

近年急速に進歩するAI。生成AIの発達によって建築はどう変わるのだろうか。

今こそAIによって建築の可能性を広げる時なのではないだろうか。私の地元であった、ブルーノタウトの生駒山嶺小都市計画を用いて、現状の課題である電波塔をChatGPT、Stable Diffusionを用いて提案する。

この提案により、AIの活用によって今まで持っていた、過去の情報の広がりがあるのではないかと。

0516



痕跡を継ぎ接ぐ菱野団地

黒川紀章による団地計画の再解釈

愛知淑徳大学
竹川 葵

黒川紀章が50年前に計画した愛知県瀬戸市に位置する菱野団地の再解釈を行う。原山台、八幡台、萩山台からなり、現在は3地区同士や中心との分断が進む。計画当初の地図や過去と現在のギャップから今に活かす特徴や計画地を導き出した。残る歩道橋や道路計画での繋がりを活かし、生活空間、商業空間を互いに延長する場を計画した。なだらかな高低差や3方向性に着目することで、既存の建物を再解釈し低密度で豊かな生活を目指す。

0460



現象スル依代

景観形成における祭祀及び文化構造の空間化による場所性の増幅

近畿大学
本石 颯真

我々の生活に、無意識で溶け込む神社神道。

森羅万象に神を宿し、古来より神の存在を信じながら生活を営んだ。しかし、神道への関心は薄れゆき、観光公害、過疎化、伝統文化の衰退などにより、信仰の場としての尊厳と場所性が失われつつある。形骸化されるこの場所を、歴史的文脈を掘り起こし、発起させる。建築によって。

0494



盲学路

- 盲人の空間把握能力から築く寄宿舎及び通学路の提案 -

神奈川大学
松野 百花

盲人は、空間把握を視覚以外の四感覚と記憶を手掛かりとして生活する。しかし、かつて盲人が空間把握の手がかりとしていた街のサインであるパチンコ店から漏れる音やタバコの匂いは、騒音問題などの観点から失った。これらを手がかりとしていた盲人は、街のサインを失った今、どのように生きていくべきであろうか。盲人と建築、あるいは都市における問題として挙げられる、盲人と「見常者」の社会的分断を主題に、建築計画を行う。

0500



かけらから紡ぐあなただけの物語

東京理科大学
加賀 雛乃

ある小さなまちで繰り広げられる8つの断片的情景を設計した。絵を描くところから始め、構築しこれら建築の断片的表現より、それぞれの今まで培った解釈の仕方、物の捉え方を紹介させ、これらのかげらをつないで、あなたの想像するまちの全体像、このまちで紡ぐ物語を考えてほしい。きっとできあがるまちのイメージや、場の捉え方、使い方はあなたのこれまでの人生や自身の持つスケール感が大きく作用したものになっているはず。

0515



暮らしが根づく庭

京都工芸繊維大学
大町 有香子

下宿先の最寄りの公園である松賀茂公園の一部が今、宅地開発により失われようとしている。公園の存続と宅地開発は共存できないのだろうか。誰のものでもなかった公園の中に、建築を建て、暮らしが生まれることで、そこに住む住人らが「我が事」として公園を耕し始める。公園にある建築や、そこに住む人が、地域住民がその場所を訪れる理由になると考える。

0521



翠憶を辿って

商店街と共にある阪急王子公園駅と駅前広場
武庫川女子大学
奥 瑞貴

「みどり」と「あお」を辿り、音と風景を紡ぐ。摩耶山の麓に位置し、かつては田畑ばかりが広がっていた水道筋界隈も、時代の流れと共に町は発展していき、商店街を主として街全体が賑わいを見せている。近年では王子動物園の再整備計画とそれに伴う大学の誘致やマンション、アパート建設が進められており、人口はさらに増加傾向にある。今後、この街の「翠」あふれる「記憶」をどのようにして継承していくべきかを考える。



0536 声の建築化

- 書籍上の声から創る児童養護施設 -

愛知淑徳大学
田口 廣

対象人物を定めない児童養護施設という建築において、書籍上で出会った個々の声に対して1つ1つ設計を通じて応える事は結果として小さな部分を作り出す事に繋がる。施設に入所する児童の性格が多種多様であるように、受け皿である建築もそうである必要があるのではないか。児童の声によって作られた小さな部分は、様々な性格を持った受け皿となる。それらの部分でつくられた建築は児童養護施設の新たな建築形態である。



0570 縷縷綻

～二十四節気七十二候の感性を映す都市、そして人～

法政大学
田中 春士

自然と我々を繋ぐもの。現代を生きる我々は自然現象の裏にメカニズムを見る。対して先人達は自然現象の裏に物語を覗いた。二十四節気七十二候は繊細な季節の読み取りから事象の連関を恣意的に作り上げている。このナラティブな所作を用いて、季節の移り変わりに呼応する人の振る舞いを映し出す、スクリーンのような装飾的建築を都市に散りばめる。過去にあった豊かさをヒントに、自然環境という隣人との関係性を再構築する試みである。



0597 110年後の土の行方

摂南大学
岡村 悠登

自分が循環の一部として生きている。そんな実感がほしい。でも自然循環は自分を見失うくらい大きい。自然を感じにくい都市での生活ではなおさらだ。もっと小さな循環だったら私にも関わられるかもしれない。一粒の雨水、一輪の花、一握りの土。そんな世界(スケール)で生きてみたい。



0618 地域と生きる擁壁グリッド

密集市街地域における可変性を持った建築の提案

琉球大学
金城 花林

那覇市の密集市街地に立つ、地域の時間変遷によって所室の役割やボリュームを変化させられる建築物である。地域のコンテクストである擁壁はグリッドを持っている。それを基礎とし、加えて格子状の鉄骨躯体と壁パネルを用いて建築物を建てる。グリッドに沿ったスラブは重なり合い、上下の視線の抜けや周囲の環境を取り入れ成長していく。地域と生きる建築物である。



0638 モノの移動による街の風景の継承と更新

東京理科大学
出口 陽菜

住宅街における空き家問題や新築信仰・消費主義的な現状に疑問を抱いた。本計画では、空き家予備軍の住宅の一部を『建材ドナー』として登録し、街のストックと捉える『建材ドナー制度』を提案する。利用した第三者が現れたら部分解体し、その建材を用いて増築や新築の一部とする。建材と風景の一部が切り取られ、新旧が融合した町並みが形成される。連続的な変化で地域の固有性を次世代に受け継ぐ、住宅街の更新方法を提案する。



0568 点と線

～史実を書き、史跡を巡る～

芝浦工業大学
吉野 由珠

書道はにじみ方やかすれ方が強弱やスピードによって自然と決まる。この関係性を建築に落とし込むと上手くいく。それは書道が実は3次元表現であるからだ。これは書道をノーテーションの1つであると提案し、具体的な表現を浜離宮で行ったものである。



0583 「海端の継目」

～海洋ゴミ再資源化施設と離島ホテルの融合～

東京科学大学
西谷 樹

長崎県対馬市では宿泊施設の不足と海洋ごみの漂着という二つの問題を抱えている。小規模な海洋ゴミのサーマルリサイクル機能を併せ持つことで、ごみの循環を施設内に取り入れ、地域に開かれた宿泊施設を計画した。ごみを回収した漁船が停まる、漁港の斜面を登っていく体験を通して、海洋ごみが形を変えながら人々の生活に昇華され、ゴミと資源の間、島民と訪問者の間、海と人の間に存在する、継目となる。



0609 水を律し、日常を彩る

立命館大学
今井 廉

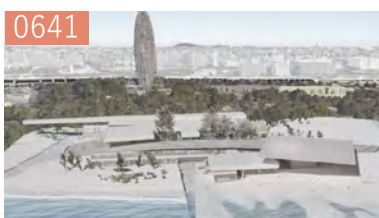
機械化自動化にともなって背景化した土木インフラのひとつとして、瀬田川洗堰の老朽化に伴った建築化を行う。琵琶湖と淀川水系の水位調整を行う瀬田川洗堰に日常空間を挿入することで堰の変化と入り込む日常を通してインフラの役割を発信する場となすとともにインフラと日常の共存の在り方を提案する。



0625 Urban Punctum

日本大学
仲西 風都

写真を媒介に渋谷の都市を記述することから卒業設計を始める。撮り溜めた写真の読み込みを都度重ねながら、写真的偶然性を孕んだ発見的な設計手法を用いて均質化に向かう渋谷の都市に裂け目となるブックトゥムを設計する。想像的余白に富み、観察者と対峙して常に問いを発し続ける建築。造形の根拠を渋谷の空の輪郭に見出し、確かにそこにあった渋谷の記憶を未来へと継承する。



0641 二十二世紀の苗木

早稲田大学
島 孝太

人工の自然環境を示すキーワードとしてピオトープを主題とし、研究活動から社会実装までの自然環境の造成現場を可視化する建築を計画した。敷地の葛西臨海公園そのものを1つの大きなピオトープとして研究対象とする。海浜公園の護岸や丘陵といったランドスケープ、土木構造物の特徴を残して建築化することを目指した。自然を享受する場所であった公園はその自然造成技術を発展、発信する役割を持ち、新たなフェーズへ移行する。



0646 複数資本 BASE

名城大学
磯村 今日子

お金の消費が当たり前になっている今、複数資本 BASE でお金以外の豊かさに気づき、外にお金を消費していた分を家の中で置き換えて過ごすことで、豊かに暮らせる新たな当たり前を作る。8つの資本それぞれのかかわり方を考え、休む以外の選択肢を家の中で持つことで、多様な価値を得ることができる。お金以外の豊かさに目を向けること、物や資源の無駄な消費を減らすことが、これからの社会を生きる上で大事だと考える。



0677 ちいさな一歩のかさねかた

京都大学
大槻 一貴

人生はいかに可能か。スマホを持たずに京都を60km歩いた。ありふれた日常の風景とモノと自分が繋がった。まさに白黒な世界に「色がついた」感覚だった。この感覚をどうすれば建築に興ずることができるだろうか。徒歩旅の分析から「日常の原理」を定義し、5つのスタディの発見を、不可逆的な設計手法（設計論）と新たな建築論に展開する。経験だけを頼りに、自分の感情から論理的に「建築」を定義する。建築はいかに可能か。



0709 さえずり、聴こゆ

～音×まちの再構築～
茨城大学
佐野 璃央

東京千住の廃れゆく商店街にランド・サウンドマークとなる集合住宅兼商業施設を提案する。人々は小鳥がさえずるように音楽を通して交流をし、巣立っていく。音が聴こえてくる建築だが、騒音問題は無視できない。騒音の原因となる活動は、本来は楽しい活動である事が多いが、これらの活動は制限されてしまう。「音まち」だからこそ、音を許容する寛大な建築が受け入れられるのではないだろうかと考え、この建築を提案する。



0720 所有と境界の再編

～疑似血縁関係の再構築により更新し続ける商店群～
芝浦工業大学
戸塚 耀太

血縁経営の限界により衰退する商店街再生の提案。既存店舗に新規店舗が土地利用の後継者として参入し、1店舗併用住宅に2店舗・2住居が共存する「疑似血縁関係」を再構築する。また、現代の商店街では建築的境界と所有領域が一致し、商店間の分断を生んでいる。そこで、所有＝空間利用領域をずらすことで商店同士の間接性を生み出す。大規模開発が難しい商店街において、このようなささやかな操作こそが再生の鍵ではないだろうか。



0742 「私がN家を乗っ取るように」

被災 / 成行 / Relive
京都精華大学
和田 純

大工であるN氏は、夫婦に起こる事象（『成行』）からN家の増改築を繰り返す。敷地は石川県輪島市、能登半島地震で被災した。だが、N家は建ち続けN氏夫婦は生き続ける。被災も『成行』である。私は、力強く生きるN氏夫婦とN家を残したい。N氏の『成行』を収集し『成行ク』可能性を探る。N氏夫婦は「これまで通り暮らせるように」生活するなかで、「私がN家に乗っ取るように」計画する。残すこと（＝保存）の指標として Relive



0662 都市聖体示現

岡山理科大学
中村 優吾

国民の圧倒的多数が無信仰者である日本社会。信仰的感情がなくなった日本社会で、信仰者は生きづらさを感じているのではないだろうか。本計画では、信仰的感情を認識できるきっかけ場を提案し、宗教的教義や、儀式を超越した「聖なるもの」を設計し、合理的に構築された都市にある負のものが聖なるもの要因として姿を現し非合理的に構築され、世俗化された都市に見出せなかった新たな建築的価値を見出せるだろう。



0695 群像の瞬き

群像の瞬き

京都大学
閑念 真優

ふと顔をあげて気づく。世界は3秒の連続体だ。みんな、誰かの3秒を生き、誰かの3秒をつくる。3秒は、そこに起こる現象やふるまいの連鎖を現す最小単位。大阪中津だけの3秒を守りつくることで、なだれこむ都市の3秒にあらがう。これは、3秒を用いる再開発に対するカウンター案だ。



0719 歪みのリズム

歪みのリズム

一制約を調律する集住泊建築—
慶應義塾大学
井口 雄貴

神楽坂の高層化は空間だけでなく時間の流れも変え、住人同士の交わりを減少させた。一方、路地では動線が固定されず、曲がりくねった道や抜け道が多様な行動を生み出した。この柔軟性を生む制約を抽出し、建築内に落とし込むことで、空間の固定化を防ぎ、人々の行動が交錯する環境を再構築した。



0729 街の個性を紡ぐ

～古紙再生工場コンバージョン計画～
東京理科大学
田邊 穂高

開発が進む市川。建築家は今、クリアランスして美しい絵を描くことではなく、「今あるものをどれだけ豊かにできるか」を考えるべきではないだろうか。開発が進む工場地帯の既存工場を多様な空間の質を生み出す資源と捉え、住宅街にコンバージョンする。工場という街の中に建つ建築を、「大きな塊」としてではなく、「小さな街」として捉え直すことによる、大規模敷地に限界性を創出する都市の更新手法の提案である。

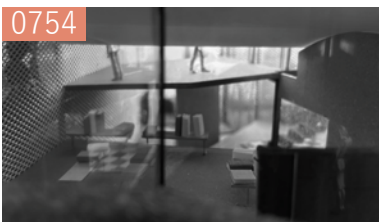


0743 三本足の椅子

三本足の椅子

京都精華大学
荒木 玲乃

身体障害者に立ちはだかる「心のバリア」に対するバリアフリーデザイン(BFD)の提案。決めつけや先入観によって失われたコミュニケーションの先の障害の認知というプロセスを取り戻すためバリアフリー然とせず、建築に溶け込むデザインを考える。空間からバリアを取り除く引き算を考えるのではなく、感覚を足し算する。足は三本でも三本足で立てる椅子の様に、持ち合わせた感覚で器用に生きる視覚障害者に学ぶ建築提案の第一歩。



0754 都市の叫び

- デモ的空間の力とその変用 -

法政大学
滝 隆也

デモ空間を通して社会・建築を改めて見直し、デモ空間の空間性を設計の手がかりにし設計する。デモ空間を通して見たことで、自身と向き合う機会、きっかけとなる場がほとんど存在しない。しかし、私は1人になる空間が自身を知る空間になると思わず、日本だからこの自身を知る空間があるのではないのかと考える。そこで、自分の世界だけでなく、異質な世界に住む他者と出会い、自身を知るきっかけとなる建築を提案する。



0768 工場を穿つ

- 味噌の伝統をアーカイブする新しい工場建築の在り方 -

東京電機大学
河崎 充紘

私の地元長野県諏訪市は昭和30年ごろ日本最大の味噌生産地として有名になった。しかし現在、慢性的な需要の停滞や担い手の減少による「味噌離れ」から、それらを補うために工場のブラックボックス化が進行し、諏訪市の味噌の伝統は工場に埋もれていく。工場を開いていくことで多くの人に味噌に触れ合う機会を形成し、味噌の伝統を育てていく諏訪地域における新しい工場建築の在り方を提案する。

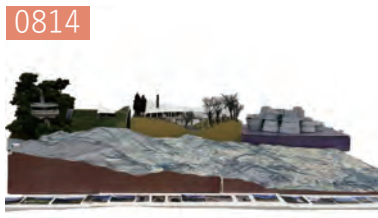


0803 醬を想う

〜香りて繋ぐ、島民と建築が発酵する拠点〜

日本大学
御園 恵理

敷地は小豆島町の「醤の郷」の散策路に面した敷地である。小豆島町は醤油の生産で栄えた。町内にいくつもある醤油蔵からは発酵している醤油の香りが町に広がり、島外から人が集まる。そこで小豆島を支えてきた発酵の力は建築や町の拠り所を生むと考える。発酵は醤油醸造所で大豆などの材料を混ぜることで起こる。小豆島の人々での発酵は島について考え、実行することだと考え設計に取り組んだ。



0814 水、脈々と紡ぐ

大阪大学
木多 翔駿

幼いころから見てきた、美しい棚田の風景の背後には、サイフォンや隧道といった灌漑システムが、そしてそれらを作り上げた先人たちの苦勞があった。それを知った時、これまで見ていた風景の見え方が変わった。しかし耕作放棄などによってその水脈が、営みが途絶えつつある。そんな営みや棚田の風景を、後世に伝えていくことができるように建築をつくっていく。これからも未来へ歴史が紡がれていくことを願って。



0834 カタルシス峡谷

- 『デミアン』から紐解く私的空間の解放 -

日本大学
小日向 環

大学進学を目指す中で心身の不調を経験したが、ヘッセの『デミアン』に救われ快復へと向かった。本設計では、同書の思考法を基に、理想と現実の関係を通じて私の内面を建築的に表現する。敷地は自己の内的世界とし、縦方向に積層する空間構成を採用。「箱」は内省、「結晶」は理想、「階段」は思考の深化を象徴する。並行二重螺旋構造を用い、「現在の私」と「理想の私」が交錯し成長する過程を空間として具現化する。



0841 親愛なる瑞穂の地へ

- 可変する空間による水田での活動の場の創出 -

関西大学
高見 紗帆

「瑞穂の国」瑞々しい稲穂のみのる国、古事記で使われる日本の美称である。弥生時代に水田が日本国内に広がって以降、様々な多面的機能を担い、私たちを支えてきた。しかし、そんな水田も減少傾向にある。このまま街から水田が消え続けて良いのだろうか。水田を人が日常的に訪れ、その中で活動する場を創出し、人と水田の関りを生み出す。人がより愛着と親しみを感じる、親愛なる地へと変遷することで水田の保全に繋げる。



0850 小景は潜む

- 山に眠る情景への足がかり -

東京理科大学
宮川 葵衣

初めて山に入った日は私は忘れない。大地と木々が織りなす静かな暗がりの中生まれた、幾多の心奪う情景-その感動は記憶として山に蓄積し、世代を超え、時間軸を超え、受け継がれるだろう。建築には、その情景を捉えるためのヒントである「足がかり」を施し、山を訪れる誰もがその情景にふと気づく瞬間を作り出す。これは、4年間山を走り続けた私が、ここを訪れるすべての人へ送る、山への足がかりとなる建築の提案である。



0869 壁と生きるパレスチナ、

パレスチナと生きる壁

京都工芸繊維大学
大島 英美里

パレスチナ問題を踏まえ、シナゴークとモスク及びそれらを超越する「太陽の間」を設計した。六日間戦争(1967)で侵略された東エルサレム最北端の滑走路跡を緩やかに立ち上げることで、ヨルダン川西岸地区を囲う720kmの隔離壁への批判を込めた視点場を造っている。造形操作には互いに補完し合う形態を用いた。シナゴーク・モスクの先に設えた「太陽の間」では、互いの存在をシルエットに抽象化する空間などが対立する双方の融和を促す。



0947 kumu kumu chair

相欠き継ぎの可能性を活かした椅子の提案

日本工業大学
長山 和奏

2枚の曲げ合板を接着させながら3種類の曲面に加工し、「脚と座面」、「座面と背もたれ」となる部材をつくる。それらを幅方向に相欠き継ぎで連結させることで、3種類の曲面が互いを支え合う仕組みとなり、椅子を形成している。部材の構成や、相欠きの深さを工夫することで、座面のたわみや連結方向の変形、脚の広がり、全体の揺れを低減している。曲面の展開による、新たな相欠き継ぎの可能性を椅子として表現した。



0970 祝いの手引

- 一高畑にするすいのりの序 -

京都大学
伊勢 玉奈

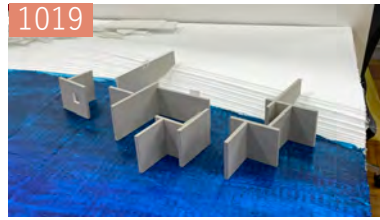
祝いとは、いのりのはしがきである。わたしから、力の及ばないものごとまで、数珠つなぎに色々なものごとを線で結ぶことをいのりだと定義したとき、建築はそのガイド=手引である。触れやすいのりとして祝いに着目し、いのりのはしがき=祝いにだけ手引を与えてみよう。奈良・高畑町においてそこだけの風物を使うことで、大きな自然や時間の概念にまでいのりの線がつながるかもしれない、新しい手引となる建築群を提案する。



アラカミヒト

日本大学
細田 祥太郎

明治神宮を設計対象とする。ここに祀られている明治天皇は生前、国家のために神を演じ、「神社」という形式は、死して尚「神」であることを強要している。私は、明治天皇を神格化という拘束から解放する。明治神宮を、設計者である伊東忠太の手法を転用して風化、設計し、一人の人間としての天皇に感謝する場とする。



宮繕の湾処

-「流れ」と共創するアドホック建築譚-
名古屋工業大学
佐方 峻吾

湾処は川の本流と繋がるよどみであり、水生生物と植生の拠り所だが、増水で沈むも水が引けば再び現れる。この循環を建築に応用し、「自ら再建し、修繕しながら使い続ける」魚市場を下之一色町に再興する。周辺の災害廃棄物を活用し、瓦礫を詰めた蛇籠壁を構築。水害で建築が壊れても蛇籠壁は残り、次の復興の礎となる。湾処に根ざしたこの空間は、水と営みが共創する場として、変化しながら持続するアドホックな建築を実現する。



移住種の家_2025

-ゲニウスロキを捕まえる12年の営み-
芝浦工業大学
末松 拓海

瀬戸内海の離島への12年をかけての移住計画。「急に現れた異邦人が、急にデザインされ、急に作られた、異質な建築で暮らし始める」という一般的な移住の状況を問題とし、「移住器」と名付けられた「場所に応答した建築と仕器の中間のような存在」を毎年制作することで土地の風土や人々と有機的なつながりを築く。出来上がる住宅もまた「移住器」を種子として育てるように仕上げ、「風土の一部であり象徴」となることを目指す。



川が都市に還るとき

大阪大学
田淵 優希

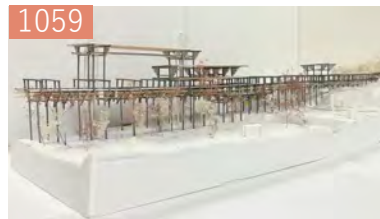
都市は自然を侵食して発展してきた。人間中心の空間は便利になったが、本当に人のための空間なのか。私は、自然が都市を侵食していく未来を描いていく。かつて江戸を支えた玉川上水は近代水道の登場で人々から離れた。飲み水としての役割が無くなった今の玉川上水のまちとの関わり方を考える。川がまちに還ると、人々の生活に自然が組み込まれた新たな日常が生まれる。



飯岡クロノフィールドミュージアム

神戸大学
吉川 日々輝

テーマは景の意識化による価値の共有である。敷地である京都府京田辺市飯岡の丘陵地は、独自の地勢により社会的な境界が存在した。特徴的な地形配置により露露栽培をはじめとした生業が集落内に生まれ、生活が営まれてきた。しかしバブル崩壊以降は生業を継続させることが難しく、集落内の記憶も失われつつある。本提案では集落内の生業を次世代に繋げる六つの建築とその動線を設計する。



里山に還す林間田園都市

-山を切り開いたNTのたたみ方-
大阪公立大学
中路 伶

都市に余白が増えた現代、山を切り開いて造成されたNTは限界集落となっている。この山裾NTを段階的にたたみ、山林間田園都市として再編する。「南海林間田園都市」を一例に、山裾NTに農林業を営む集落の生活を蚕食させ、「VONA」を用いて「管流し」を行いながら里山に還すプロセスを提案する。単なる自然林ではなく人々の経済活動によってはじめて成り立つ里山をニュータウン内に再生することで縮小時代におけるNTの量み方を模索する。



公共集落

九州産業大学
福光 侘菜

本設計は、集落で暮らす人々が使わなくなった私有地の一部をまちに開いていく（公共化する）提案である。まちで生まれた廃材を繰り返し建築に転用させ、それらがまちに点在することで生まれる空間は、家にいることの多い高齢者たちが集落の中で生活していくための公共空間となる。高齢化が進む集落で、集落内をまわりながら生活を行う地域ネットワークをつくり上げることで、高齢者たちが安心して過ごせる集落のあり方を目指す。



skope-in

法政大学
面来 由羽

これは「残余地」という都市に残された余白が均一化した街並みに色をつけてゆく物語の序章である。残余地をまちのインフラとして読み替えることで、古い道に対して連なる残余地が街区という近代的なグリッドの単位を越えた、まちに架かる連続体となってゆく。



orchard hut

山形県東根市小山田果樹園における後継の建築
芝浦工業大学
小山田 琢朗

8年後に同じ市内の農家に売却する計画がある。その際の後継ぎのための建築を考える。果樹園内に3つの建築と外構を計画する。一般に果樹園内の通路や建築は、通常の住宅地にある建物になっているがゆえに、日照条件や通風、地盤面において果樹園に悪い影響を与えている。園内には、すでに果樹にとって最適な環境を構成する工作物が存在する。一般の住宅地には建てられない建築を考える。



メアリーの2つの家

京都大学
水崎 恒志

料理人、メアリー・マローンは腸チフスの健康保菌者という特殊体質から20世紀初頭のニューヨークを騒がせ、社会から隔離された孤島でその生涯を終えた。彼女の不運な人生をモチーフに、歪みを抱えて現象する2つの「家」を想像する。



住まいさがしは
これひとつ!

at home

アットホーム 🔍



建築土木学生向け 就活総合サービス

コンキャリは、毎月8,000人が利用する建築土木(construction)業界で就活を行う大学生・大学院生のための就活総合サービスです。5社以上のスカウトや、建築土木領域に特化したイベント、就活コンテンツから、専門的なサポートまで、建築土木における就活のサポートを全面的に行っています。コンキャリが支援している2つのプロジェクトをご紹介します。



建築土木学生が施工・運営する建築土木学生向けのコミュニティスペース。

<POINT>

- 模型材料を安く買える
- 10円でA1印刷できる、無料のワークスペース
- 大学を超えたカフェ交流スペース



海外建設プロジェクト「CeePs」
建築土木学生が主体となり、フィリピンやネパールの街づくりを応援。学生はツアー費用免除となります。(選考あり)

<NEXT PROJECT>

- 期間：2025年8月5日～8月11日
- 場所：ヌワコット(ネパール)
- 参加者：15歳以上の土木・建築学科学生
- 参加人数：最大20名



所在地：東京都文京区湯島 1-7-9 お茶の水ウチャマビル
サイト：<https://const-career.com/>



建てたい人の想いを叶える

日鉄物産システム建築



「建てたい人の想い」をカタチにするため
わたしたち日鉄物産システム建築は、独自の「システム建築商品」で
日本全国に毎年200棟を超える建物を提供しています。



新卒採用サイト



note



日鉄物産システム建築の情報をお届けしています。ぜひご覧ください。



VECTORWORKS®

教育支援ライセンス

大学、専門学校、
高等専門学校、高校、
キャリアスクールなど、
CAD教育に携わる
皆様が対象です。

無償提供スタート



Vectorworks 教育支援ライセンスは、近未来を担うデザイナーの育成を目指す CAD 教育現場の声から生まれたプロダクトです。

教育機関向けライセンス

学校環境(教室、研究室)向けネットワーク版ライセンス

学生・教職員向けライセンス

個人(学生・教職員)向けスタンドアロン版ライセンス

入手方法や、仕様詳細はこちらから <https://www.vectorworks.co.jp/educational-license/index.html>

Vectorworks Design Suite (Architect+Spotlight+Landmark+Fundamentals)と同等の機能を有し、建築・インテリア・舞台&照明、土木測量、プロダクトなど様々なデザインシーンで利用できます。

Vectorworks の技能習得を加速化する各学習サービス

Vectorworks Design Blog

<https://bim.vectorworks.co.jp/blog/>

Vectorworksをより深く活用するための情報サイト。各プロダクトの解説講座や質問を解説した記事を掲載。



Vectorworks ユーザーフォーラム

<https://www.vectorworks.co.jp/forum/>
ユーザー同士が質問、自作リソースをアップロードするなど、Vectorworksを活用できる環境を目指すサイト。



Vectorworks University

<https://www.vectorworks.co.jp/univ/>

Vectorworksを学ぶためのコンテンツを集約した総合的学習サイト。2D、3Dの基本操作の動画などを掲載。





建築が大好きだ。

その情熱だけで十分だ。



建築設計者のための求人サイト

A-workeR

エーワーカー

<https://a-worker.com/>



運営会社：ユニオンシステム株式会社 Tel:050-3733-3020

明日を築く仕事

街を結ぶ、人をつなぐ、明日を築く。



京成建設株式会社は京成グループの一員です。

ISO9001・ISO14001取得



豊かな生活環境を提供する

京成建設株式会社

環境と人に優しいまちづくりへ。未来を信じて。

Believe.

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



ria

RESEARCH INSTITUTE OF ARCHITECTURE



株式会社 INA 新建築研究所
Institute of New Architecture



AZUSA SEKKEI

建築に、 温度を。

街に思いを込らせたか、人と暮らしを考え抜いたか。
 社会の未来を想像したか、常識を乗り越えたか。
 建築は、人と社会と生きていくから、
 企画に、ロマンを。設計に、提案を。
 実施に、実直さを。監理に、徹底を。
 今日も、この世にたつたひとつしかないデザインを実現する。
 つくり手の温度を伝えながら。

夢を、 カタチに。

設備設計
 建設構設計
 池下FBIM設備
 構造設計
 創建構造設計
 生産設計
 池下設計
 池下FBIM設備
 風圧設計
 応用建築設計事務所
 GEA建築設計社
 池下設計
 都市開発
 GEA建築設計社

IKESHITA GROUP
 株式会社 池下
 代表取締役 池下 潤
 〒164-0012
 東京都中野区本町1丁目32番5号
 ハーモニーテラス303号
 TEL : 03-6859-1711
<https://www.ikeshita.com/>

2025年
 27卒サマーインターンシップ
 7月～9月に開催決定!!
 優秀作品は実際に建築・販売
 賞金 **500,000円**
 【株式会社オープンハウス・ディベロップメント】 3Days Internship
 エントリーはこちら

株式会社 川喜田建築設計事務所

KAWAKITA ARCHITECT & ASSOCIATES

SOCIAL | DESIGN

KUME SEKKEI
 株式会社 久米設計

AXS

株式会社 佐藤総合計画

axscom.jp

SANYU

サニユー建設株式会社

株式会社 JR東日本建築設計

<https://www.jred.co.jp>



株式会社
大建設

代表取締役社長 菅野尚教

www.daiken-sekkei.co.jp



大同工業株式会社

建築でワクワクさせたい。

THE PASSION DRIVES ARCHITECTURE

建築家によって描かれた二次元の図面を現実空間に仕立てる仕事。

一人ひとりが情熱あふれる技術者であること。

それが私たち大同工業の誇りです。



東急設計コンサルタント

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

建築部門の業務内容はこちら→



期待を超える

かわる時代に、かわらない価値を

東畑建築事務所

TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.



NIKKEN

EXPERIENCE, INTEGRATED

日建設計



Field Design Architects

株式会社フィールド・デザイン・アーキテツツ一級建築士事務所



三菱地所設計

Mitsubishi Jisho Design

人やまちを元気にする



100th
ANNIVERSARY

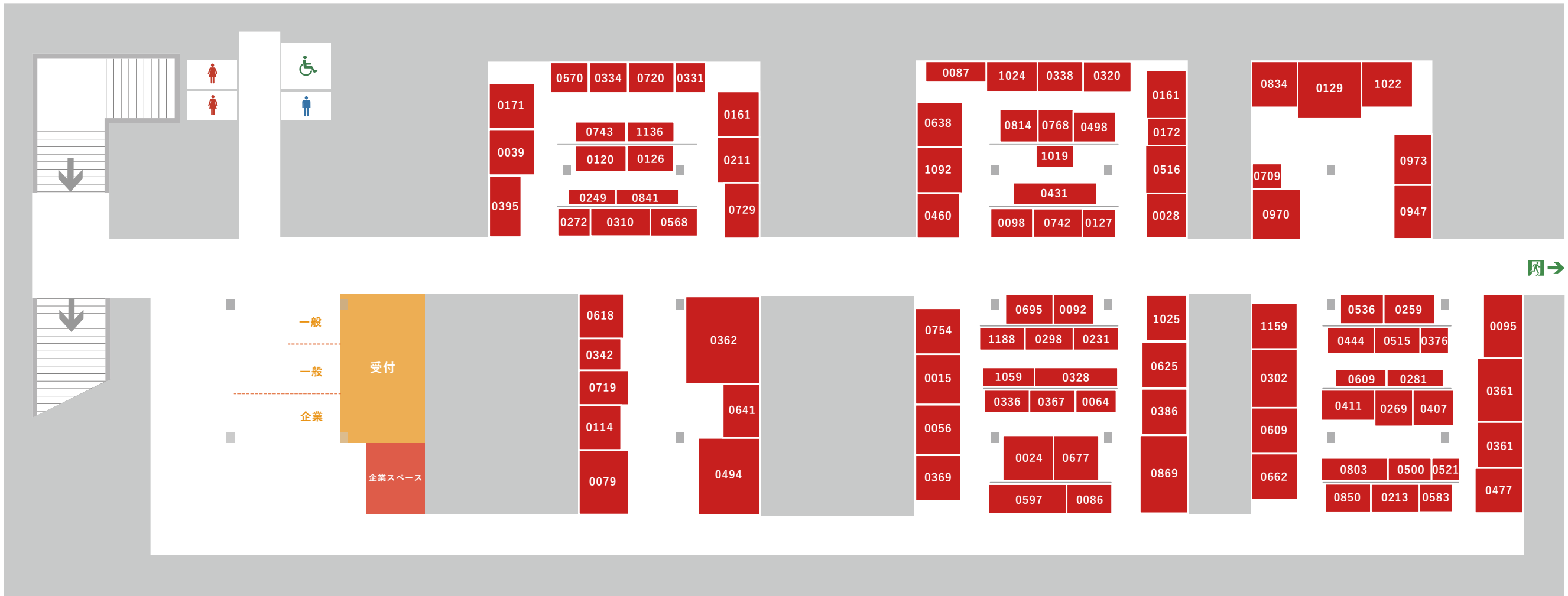
101年目の「つなげる・つながる設計」へ。

安井建築設計事務所

おかげさまで2024年4月1日に創業100周年を迎えました。



株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.





akarenga diploma collection 2025

ID	作品タイトル	名前	大学名
15	建築的可能世界	山崎 稜太	神戸大学
24	ドンツキの再編が宿す風景	初木 まどか	大阪工業大学
28	ヒトの在りか -街へとつながるヒトの暮らし-	四辻 誓太	東京都市大学
39	虚と実 - 切開と縫合による漁村再編 -	大野 岳	大阪公立大学
56	2979.6956	平井 悠策	大阪工業大学
64	キラキラな世界 -Tiffany & Co.の宝石に宿る魅力-	小林 萌々花	東京都市大学
79	場の響奏 - 音楽と環境の時間軸を超え、建築は共鳴する幻奏となり得るのか-	清水 大暉	法政大学
86	シオの追憶 - 広島県竹原市の記憶を運ぶソルトシップ -	河内 遼	立命館大学
87	依存の表徴	三浦 哲平	日本大学
92	拜啓、海へ	柳生 水樹	東京理科大学
95	ご先祖さまはお茶碗の前に	深澤 一弘	東京都市大学
98	廃棄のミメシス -擬態的境界による再編集世界の想像-	庄司 唯人	東京都市大学
114	Here -物語と建築の往來を記録する-	金澤 恒明	日本大学
120	本町アーカイヴ プリコラージュ的手法を用いた建築群の再編	武木田 壮亮	大阪産業大学
126	つむぐ記憶、ほどく日常	光野 綾華	大阪工業大学
127	空間はわたしの外側を、食事はわたしの内側をめぐる。	鄭 佳恵	大阪公立大学
129	宇宙 トウキョウ わたし	佐藤 萌	明治大学
161	軌跡と街図	柏木 宏太	法政大学
171	農城	北澤 宏太郎	早稲田大学
172	歌舞伎町コンプレックス-旗竿地の雑居ビル建て替えによるネオホームレスのための児童相談所-	小泉 満里奈	早稲田大学
211	鎮守の堤-信仰と防災を繋ぐ、埋立地の新たなランドスケープ-	西村 隆司	芝浦工業大学
213	変容の萌芽-プロセス・プランニング論の更新からみるアートプラザの改修計画-	大塚 竣斗	日本大学
231	他者性を纏う-都市における開かれた暮らしの提案-	寺林 蒼月	東京理科大学
249	階段教室にシャッター通り商店街=小学校としての再生	後藤 大空	崇城大学
259	空地から種地へ - 池袋本町都市計画道路における未来の交配実験 -	渡辺 椎菜	工学院大学
269	変化する文化塔~消えゆく祭礼の蓄積装置~	園田 悠太	日本大学
272	生きつづける物語	白崎 暉	法政大学
281	私は、	大田 祥悟	明治大学
298	千本松原と対話する小屋	鎌田 蓮人	大同大学
302	RhinoGit -履歴と署名の集合知-	水野 祐紀	慶應義塾大学
310	風景に住まう~棚田に没入する暮らし~	小森 魁	京都芸術工芸大学
320	蝦夷のまほら -ハスカップワイナリーが誘導する産業転換、「環むろらん」を描く-	長田 津都未	長岡造形大学
328	水へのもたれかた	後藤 雄大	明治大学
331	平生のすみか	遠藤 さくら	慶應義塾大学
334	駒沢回想録2064 -二つの東京五輪/ノスタルジアによる甘美なオルタナティブ・パストの啓示-	鈴木 創	芝浦工業大学
336	やわらかい革命 ~デモとマスの力を自覚する都市装置~	栗林 亜佐子	芝浦工業大学
342	国際団地	植松 駿	日本大学
361	3次元トランジット計画	与儀 大輔	東京電機大学
362	3つの収束原理/3 standard convergences	大塚 達哉	日本大学
367	私のアトリエ	田村 さやか	北海道科学大学
369	眠る家 - 感覚の記憶を記録する -	宮地 愛美	東京都市大学
376	野生へのまなざし	高橋 照	東京理科大学
386	がらんど	永島 七海	東京藝術大学
388	湖に人を纏う	荒井 琳	高知工科大学
390	風景をわたしのものにする-一手の先のエノコログサから夕焼け空まで-	武田 恵実	日本女子大学
395	平成新山のふもとで生き続ける島原へ - 溶岩ドーム崩壊という自然現象と共存する今後の安中地区の在り方 -	中村 紗也佳	奈良女子大学
407	来歴認承増殖都市~歴史が育んだ'図々しさ'が成長させる三河島建築~	福田 文絵	実践女子大学
411	Mt.Habitat -都市に建つ山-	金森 沙良	東京理科大学
431	都市の劇場 - 仮想境界による狭間の改修 -	小木曾 力斗	大同大学
444	ウグワンコトパー祈りの言葉から考える建築の再解釈-	宮城 英通	琉球大学

ID	作品タイトル	名前	大学名
460	現象スル依代	本石 颯真	近畿大学
477	アポリジニの家	細野 開友	日本大学
494	:::~:::盲学路 -盲人の空間把握能力から築く 寄宿舍及び通学路の提案-	松野 百花	神奈川大学
496	資源連動建築論 -ガソリンスタンド跡地を活用した木材の流通拠点の設置と木材活用の波及-	三上 翔三	工学院大学
500	かけらから紡ぐあなただけの物語	加賀 雛乃	東京理科大学
510	知能の拡張-生成AIによってアンビルトを再構築する設計プロセスの提案-	上村 和輝	京都工芸繊維大学
515	暮らしが根づく庭	大町 有香子	京都工芸繊維大学
516	痕跡を継ぎ接ぐ菱野団地-黒川紀章による団地計画の再解釈-	竹川 葵	愛知淑徳大学
521	翠憶を辿って	奥 瑞貴	武庫川女子大学
536	声の建築化-書籍の声から創る児童養護施設-	田口 廣	愛知淑徳大学
568	点と線 ~史実を書き、史跡を巡る~	吉野 由珠	芝浦工業大学
570	縷縷綻 -二十四節気七十二候の感性を映す都市、そして人-	田中 春士	法政大学
583	海端の継目 - 海洋ごみ再資源化施設と離島ホテルの融合 -	西谷 樹	東京科学大学
597	110年後の土の行方	岡村 悠登	摂南大学
609	水を律し、日常を彩る	今井 廉	立命館大学
618	地域と生きる擁壁グリッド -密集市街地における可変性のある建築の提案-	金城 花林	琉球大学
625	Urban Punctum	仲西 風都	日本大学
638	モノの移動による街の風景の継承と更新	出口 陽菜	東京理科大学
641	二十世紀の苗床	島 孝太	早稲田大学
646	複数資本BASE	磯村 今日子	名城大学
662	都市聖体示現	中村 優吾	岡山理科大学
677	ちいさな一歩のかさねかた	大槻 一貴	京都大学
695	群像の瞬き	閑念 真優	京都大学
709	さえずり、聴こゆ~音×まちの再構築~	佐野 璃央	茨城大学
719	歪みのリゾーム	井口 雄貴	慶應義塾大学
720	所有と境界の再編 -疑似血縁関係の再構築により更新し続ける商店群-	戸塚 耀太	芝浦工業大学
729	街の個性を紡ぐ ~古紙再生工場コンバージョン計画~	田邊 穂高	東京理科大学
742	「私がN家を乗っ取るように」被災/成行/Relive	和田 純	京都精華大学
743	三本足の椅子	荒木 玲乃	京都精華大学
754	都市の叫び -デモ的空間の力とその変用-	滝 隆也	法政大学
768	工場を穿つ -味噌の伝統をアーカイブする新しい工場建築の在り方 -	河崎 充紘	東京電機大学
803	醬を想う ~香りで繋ぐ、島民と建築が発酵する拠点~	御園 恵理	日本大学
814	水、脈々と紡ぐ	木多 翔駿	大阪大学
834	カタルシス峡谷 -『デミアン』から紐解く私的空間の解放-	小日向 環	日本大学
841	親愛なる瑞穂の地へ	高見 紗帆	関西大学
850	小景は潜む-山に眠る情景への足がかり-	宮川 葵衣	東京理科大学
869	壁と生きるパレスチナ、パレスチナと生きる壁	大島 英美里	京都工芸繊維大学
947	kumu kumu chair 相欠き継ぎの可能性を活かした椅子の提案	長山 和奏	日本工業大学
970	祝いの手引-高畑にしるすいのりの序-	伊勢 玉奈	京都大学
973	アラカミヒト	細田 祥太郎	日本大学
1019	営繕の湾処 -「流れ」と共創するアドホック建築譚-	佐方 峻吾	名古屋工業大学
1022	移住者の家_2025 -ゲニウスロキを捕まえる12年の営み-	未松 拓海	芝浦工業大学
1024	川が都市に還るとき	田淵 優希	大阪大学
1025	飯岡クロノフィールドミュージアム	吉川 日々輝	神戸大学
1059	里山に還す林間園都市-山を切り開いたNTのたたみ方-	中路 怜	大阪市立大学
1092	公共集落	福光 侖菜	九州産業大学
1136	skope-in	面来 由羽	法政大学
1159	Orchard hut 山形県東根市小山田果樹園における後継の建築	小山田 琢朗	芝浦工業大学
1188	メアリーの2つの家	水崎 恒志	京都大学